

（１）大学・学科の設置理念

①大学

岡山大学は、国立大学法人法の規定に基づき設置され、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念としている。人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければならない。本学は、公的な地の府として、高度な知の創成と的確な知の継承を通じて人類社会の発展に貢献する。

岡山大学の目的は、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」である。本学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のためのパラダイム構築を大学の目的とする。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

環境生命自然科学研究科は、理学部・工学部・農学部を基礎学部とし、「基礎科学や応用工学の知識と技術」に「環境問題と食料問題に関する新しい学問体系」を融合し、深化することにより、より広い社会ニーズに対応し、問題を解決できる様々な枠・壁を越える多様な人材の養成を行うため、研究科に1専攻を置き、学位プログラム制を導入する改組を計画している。

環境生命自然科学研究科では、国際的に通用する教養、高度な専門性、そして多様な考えをまとめることができる力、実践的な問題を解決できる力、探究を推進する力を身に付け 専門的な実践に取り組む力を身に付け、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で審査及び試験に合格した学生に学位を授与する。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を大学の理念としている。学生の教育については、高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的な能力と人格を備えた人材の育成を目標とし、課題探求能力と課題解決能力の習得を徹底することを目標としている。

このことを踏まえ、岡山大学では、ESDの理念を持ち ①学習指導力（子どもの学習を指導する力量）②生徒指導力（子どもの生活を指導する力量）③コーディネート力（家庭・地域・同僚・諸専門家と協働する力量）④マネジメント力（教師として必要なマネジメントの力量）の4つの力で構成された教育実践力をバランスよく身につけた、反省的で創造的な教員の養成を理念・目的とした教育を行っている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

環境生命自然科学研究科は、数学、理科、農業の各専門分野における高度な基礎学力を深化させ、また、異分野にまたがる学術的知見を融合した総合力を兼ね備えた教員養成を目標としている。それを達成するため、既存の学問分野を融合した学位プログラムを編成し、教育・研究の高度化を図

りながら専門性と総合性・学際性のバランスを考慮した教育・研究を実施していく。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

① 中専修免（数学）

数学における高度な基礎学力を深化させるとともに理学・工学的分野を横断する学位プログラムを設置することにより、中学校学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

② 高専修免（数学）

数学における高度な基礎学力を深化させるとともに理学・工学的分野を横断する学位プログラムを設置することにより、高等学校学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

③ 中専修免（理科）

物理・化学・生物・地学の各専門分野における高度な基礎学力を深化させるとともに、異分野の学術的知見を集結・融合させた横断的アプローチによって、課題解決にあたる能力を涵養することにより、中学校学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

④ 高専修免（理科）

物理・化学・生物・地学の各専門分野における高度な基礎学力を深化させるとともに、異分野の学術的知見を集結・融合させた横断的アプローチによって、課題解決にあたる能力を涵養することにより、高等学校学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

⑤ 高専修免（農業）

地球・環境・生命科学などに関する高度な専門性と自律的探究力をもって、人口・食料問題、地球環境変動、自然災害など直面する課題解決を学校現場で実践することのできる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

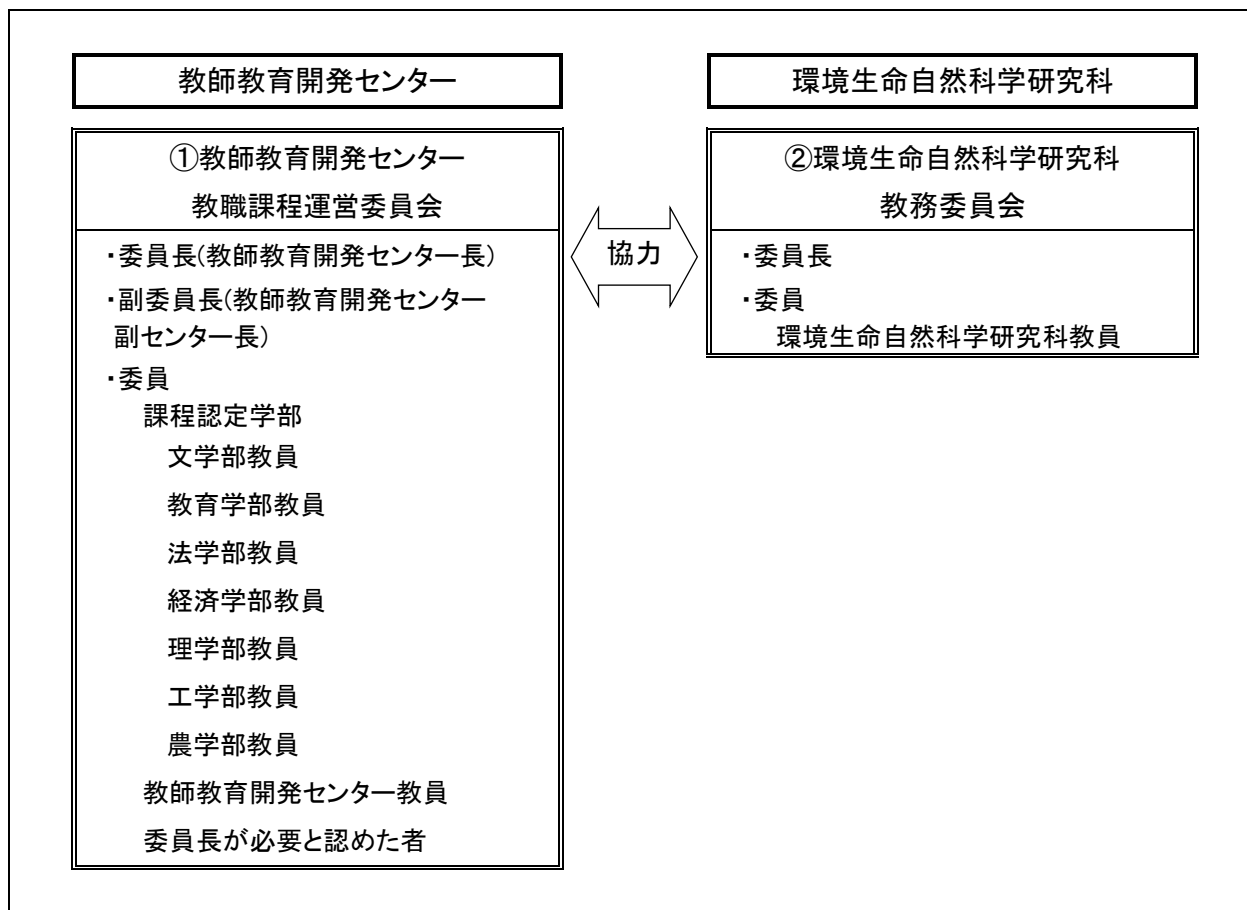
① 全学的組織

組織名称：	教師教育開発センター教職課程運営委員会
目的：	全学的な教職課程の管理及び運営等を行う。
責任者：	教師教育開発センター長（教育学部長 兼任）
構成員（役職・人数）：	委員長（センター長）1人，副委員長 1人，委員 12人
運営方法：	教師教育開発センター（全学センター）及び教職課程認定を有する7学部から選出された委員で組織され，全学教職課程の管理・運営に係る事項，学部間の調整に係る事項等について，毎月1回，年11回委員会を開催し，審議する。

②環境生命自然科学研究科組織

組織名称：	環境生命自然科学研究科教務委員会
目的：	環境生命自然科学研究科の教職課程全般及び教育カリキュラムについて審議する。
責任者：	委員長（副研究科長）
構成員（役職・人数）：	委員長 1人，委員 19人
運営方法：	副研究科長及び各学系から選出された委員で組織され，教職課程全般及び教育課程の編成及び改善に関する事項等について，毎月1回，年11回委員会を開催し，審議する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組**(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等**

特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 特になし

連携先との調整方法：

具体的な内容：

Ⅲ. 教職指導の状況

教師教育開発センターにおいて、次の活動を行っている。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員免許取得希望学生を対象とした教職オリエンテーションの実施 2. 教員採用試験情報の提供，論作文の添削，模擬面接などの教職支援 3. 教員採用試験に合格した学生等に対する教職相談活動として「教師力養成講座」を開講 4. 卒業・修了後の学級経営や初任者研修，学校内での人間関係などの相談対応 |
|---|

環境生命自然科学研究科では，各教員及び教務担当事務室において，随時，教職課程の履修指導を行っている。
